

(別紙1)

循環資源利用説明書

1 循環資源の利用量

循環資源の種類	排出者 (発生場所)	中間処理者 (処理場所)	中間処理者 の処理方法	(受入形態) 中間処理者と申請者 が異なる場合に記載	年間利用量
					t
					t
					t
					t
循環資源利用量合計 (A)					t
県内循環資源利用量合計 (B)					t
循環資源全体に占める県内循環資源の占有率 (B/A)					%

※記入しきれない場合は、任意の様式によること。

申請者が、産業廃棄物処分業者の場合には産業廃棄物処分業許可証の写しを、また一般廃棄物処分業者の場合には、一般廃棄物処分業許可証の写し、又は市町村との委託契約書の写しを添付すること。

2 循環資源以外の原材料の利用量

原材料の種類	仕入先	年間利用量
		t
		t
		t
小計		t

3 循環資源の含有率 (1製品あたり重量比)

循環資源の種類	含有割合 (%)	その他材料の種類	含有割合 (%)
合計含有割合		合計含有割合	

4 製品の普及により期待できる具体的効果

(廃棄物の排出抑制及び循環的な資源利用に対する効果)

--

(注) 県内の中間処理施設などにおいて選別処理等が行われた後に発生する有用物については、そのも

との廃棄物の出自にかかわらず県内で発生した循環資源と扱います。
(別紙2)

環境負荷の低減に関する自己評価書

項 目	評 価
(製造時の環境負荷) 1 新材からの製造に比べ、エネルギー消費の増大、地球温暖化物質の増加、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、有害物質の排出など環境負荷が増大しないか。	A 削減する B 変わらない C 増大する
(根拠・理由)	
(輸送時の環境負荷) 2 新材に比べ運搬距離が著しく長くなり、エネルギー、地球温暖化物質などによる環境負荷が増大しないか。	A 削減する B 変わらない C 増大する
(根拠・理由)	
(使用時・施工時・解体時の環境負荷) 3 使用時・施工時・解体時に有害物質が溶出されたり、粉じんとして排出される可能性はないか。また、土壌、水質、地下水に係る環境基準を超過させる原因とならないか。	A 可能性なし B どちらともいえない C 可能性あり
(根拠・理由)	
(廃棄時の環境負荷) 4 有害物質等を含有することにより、廃棄時に土壌、水質、地下水に係る環境基準を超過する原因とならないか。また、廃棄時に新材からの製品に比べ処理困難物にならないか。	A 可能性なし B どちらともいえない C 可能性あり
(根拠・理由)	
(再リサイクル) 5 再リサイクルは可能か。また、再リサイクルへの取り組みは実施しているか。	A 可能 B どちらともいえない C 不可能
(根拠・理由)	
6 その他、製品の環境への特性に関する事項	

備考：1 評価欄がAの場合は、客観的な根拠・理由を説明できる資料を添付すること。

2 根拠・理由欄に書ききれない場合は別紙とする。
(別紙3)

コミュニケーション計画書

1 情報公開

担当部門				
責任者	職名		氏名	
情報公開を受付け、行う場所				
情報公開を行う内容				
公開方法				

2 消費者からの意見聴取

担当部門				
責任者	職名		氏名	
意見聴取の方法				
意見の活用方法				

3 コミュニケーション実績

区分	賞賛件数	苦情件数	その他	計
製造過程の環境対策				
製品の環境対応				
製品の品質				

4 意見への対応状況

意見の概要	対応状況の概要

(別紙4)

環境情報表示に関する計画書

1 認定マークの表示計画及び付記する環境情報の内容

マークを 表示する 場 所		(表示イメージ図)
マークと ともに 表示する 内 容		 <p>The logo consists of a blue stylized mountain peak above a circular arrow, with the text '信州リサイクル認定製品' (Shizuoka Recycle Certified Product) written below it.</p>

2 消費者へ提供する製品環境情報の内容

--